

平成22年度 森プロ事業実績：中沢森プロ（恵南第2）

（平成23年3月末現在）

	H20～21年度	H22年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	131	144	43	30%	人工林のみ	598	
作業道(m)	618	1,670	0	0%	作業路含む	5,340	
間伐等	面積(ha)	55	108	43	40%	利用+切捨	448
	材積(m3)	1,182	1,700	157	9%	支障木含む	11,300
備考	団地外実績(利用間伐:241ha、搬出材積:7,985m3、作業道開設:1,181m)						

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含まず) 4,800円/m3

施業集約化の状況

- ・上・中・下の3地区ごとに森林整備推進員を各1名設置し、集約化を進めている。
- ・森林所有者を戸別訪問し、施業同意を得る。

施業プランの活用状況

- ・社内的なプランナー研修にて、フォーマットを作成中。
H23より試行予定。

施業プランナー等の養成状況(H22年度)

- ・社内的なプランナー研修(林分調査の効率化と高精度の事業計画数量算出を目指す)を毎週一回開催。H23継続予定。

作業道等の状況

- ・2年目は以下の理由から開設は未実施。
「費用対効果が明確になるほどの事前林分調査がされていない(事業計画の甘さ)」
「対象エリアへの作業道の必要性に疑念を感じたため(同上)」
- ・昨年度改修した市道は雨による浸食も無く適正に管理できた。



作業システムの状況

- ・ 架線系新システム: 伐倒・造材・枝払:チェンソー→集材:タワーヤード、ラジキヤリー0.4t→積込・運搬:クレーン付き8tトラック



- ※ 架設作業効率対ラジキヤリー架設作業の6分の1短縮された。
- ※ 搬器の移動や土場の位置決め・採算分岐架線距離など各作業・技術の習熟に時間を要する。

その他

- ・ 平成22年10月28日当プロジェクトフォローアップ委員会が開催された。

森プロの成果

- ・ 集約化から施業実施に至る森林管理手法(森プロ団地内を大・中・小エリアに区分)が確立されつつある。
- ・ 森林所有者に利益還元を行い、自己山林に対する管理意識の高揚。
- ・ 基幹道の補修を実践することで、森プロチームの路網管理の意識レベル及び技術向上。

今後の課題

- ・ 社内組織の改編に伴い、当森プロ担当技術者チームが解散となった。このため、今年度は事業計画量を大幅に下回る事となった。管理責任者・小林の施業技術の向上と併せて当森プロの意義の再認識、精度の高い事業計画の必要性を痛感した。次年度は、当事業統括者として小林を位置づけ、施業技術者への意識浸透や所有者への森林整備や山林経営の必要性を積極的に訴えていく。
- ・ フォローアップ委員会にて指摘・アドバイスされた施業・山林保全・所有者の山林経営など森林づくり全般について、担当者としての勉強・知識不足を痛感した。責任を持ち、今後の地域の森林づくりに永遠に関わっていくための覚悟が足りなかった。
- ・ 今年度取組み始めた架線系新システムの習熟に取り組み、更なる素材生産性の向上に努める。